

【GSルブ 105】 日進油脂工業

1. 特徴：特殊に精製された原料を主成分とした高粘度潤滑剤
2. 特に、原子力関係の作業に使用することが出来ます
3. 用途：回転部、軸受け部の潤滑
4. 外観：淡黄色透明
5. 荷姿：1Lポリ容器



「愛しき人たち」

自宅から歩いて二、三分の距離にあるいわき市四倉支所の放射線量測定器の値は、〇・〇八八マイクロシーベルトを指している。

ちなみに、同日の県都福島市は〇・七五、商都郡山市は〇・六一、古都会津若松市は〇・二二マイクロシーベルトである。

原発の爆発事故以来、放射能とともに世界を駆け巡った言葉は、「FUKUSHIMA・フクシマ」でした。

あの日の風によって、放射能は北西の方向に運ばれやがて吾妻連峰にぶつかり進路を南に変え、絨毯爆撃のように四号国道沿いに降っていったのです。

運が良かったのか、それとも神様がすこし微笑んでくれたのか、私どもが生活するこの街を汚染から外してくれたのです。

市の中央にある住宅団地を中心に、市内の空き地には津波で家を流された人、そして双葉郡から避難された方々の仮設住宅が、た

『変貌する我が街』

くさん建てられています。

国道六号線を挟んで、波打ち際まで五〇〇m程しかない自宅の前方は、津波で大半が解体撤去され一時は寂しくなりました。

しかし、復興の足音は以外にも早くやってきました。後ろからも横からも新築の槌音が聞こえ、街の活気が戻ってきました。

閉古鳥が鳴き、狸や猪の遊び場になっていた工業団地は、双葉郡の榎葉町や富岡町の仮設工場が立ち並び、空いていた分譲地は埋め尽くされ、二期工事の再開が取りざたされるようになりました。

私どものお客様も事業を再開され、笑顔が戻った方々とお会いできるようになりました。お陰で少しずつお取引も増えていきます。

第一原発の廃炉に向けた取り組みの為、朝五時を過ぎると大勢の作業員を乗せた大型バスが自宅の前を通り過ぎて行きます。

一時、漁業・セメント・鉾山に湧いたこの街がどんな変貌を遂げるのか、見てみたいものです。

あとかぎ



新大阪から乗車した“展望特急くろしお 15号”が、紀ノ川の長い鉄橋を渡ると和歌山だった。駅には、久しぶりで再会する日野技研の社長さんの爽やかな笑顔があった。（向かって左が社長、右が専務さん）

震災のとき、いち早く支援物資を送っていただいた御礼と工場見学を兼ねて訪問させていただいた。紀州人の温かな心、石に刻んで帰ります。